

創立135周年記念

聖書 ルカによる福音書 10 章 25-37 節 (新約 126 頁)

25 すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」 26 イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、27 彼は答えた。「『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」 28 イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」

平和を祈る

創立135周年を迎え、これまでの神様のみ守りと導きを覚え、喜びと感謝を献げたいと思います。

またこの一年間に逝去され、神様のみもとへ旅立たれたご家族、卒業生、教職員、関係者皆様の魂の平安と、残された方々に神様の慰めを祈りましょう。そして今年は特にウクライナなど世界各地で争いによって命を奪われた方々の魂の平安ため、離された家族や友の無事を祈る人々を覚えて祈りましょう。

しばらく目を閉じて黙祷しましょう。(黙祷)

ありがとうございました。

この一年、わたしたちはいまだ感染症の不安の中にありますが、2月にはウクライナで戦争が始まりました。ロシアの侵攻も、ウイルスの世界を侵食したこともわたしたち人間の愚かさが生んだことです。そして地球規模の気候変動は干ばつや水害を生み、食糧危機と飢餓を招いています。これも文明、特に産業革命以降のわたしたちの営みそのものが生み続けていることです。

気候変動は英和にも牙を向けました。9月23日、台風15号の影響で線状降水帯が途切れることなく静岡を襲いました。1時間に120mm、12時間で405mm以上の記録的短時間大雨の被害が各地に起きました。停電や断水、地区によっては二ヶ月経ったいまも困難な生活にある方もいらっしゃいます。そして英和女学院でも浸水によって6年生の教室、家庭科の

調理室と被服室、茶室、同窓会室が被災し、英和生皆さん、先生方、関係者の皆様に不自由な学校生活を招く結果となりました。

6年生が教室を移動した数日後、わたしは床の剥がれた教室の状態を見に回りました。その時、痛ましく剥がされた床と共に、床に「床、ありがとう」「だいすき」「たくさん踏んでごめんね、痛かったね」「お茶をこぼしてゴメンね。寒かったね」「雨をふせげなくてごめんね」と色とりどりで書かれてあるのに気づきました。

また数日後、そのクラスのひとりの英和生が移動した教室で「わたしはここも外に木の緑が見えて好きです」と笑顔で言ってくれました。クラスメート共に学べる残り少ない日々を惜しむ気持ちと、神様への感謝と喜びを感じました。平和とは決して安全、安心な日々だけを指しているのではなく、喜びも悲しみも共にしながら、共に祈り過ごす一日一日を言うのではないかと教えられました。

この135年間ことばではあらわれない、筆舌に尽くしがたい悲しみや辛いことがあったに違いありません。それでも一日一日、神様のことばに耳を傾け、友だちに寄り添い、共に学び続けてこれたことに、これ以上の喜びと感謝はないと思います。英和生たちは神様の宝です。どうかこれからも変わらない神様の愛に守られ成長されますように祈ります。

黙祷しましょう

わたしたちを愛し、慰め励まし、育まれる主よ

あなたは昔、遠いカナダの地でカニングハム宣教師によき志を与え、この西草深の地に「静岡女学校」を設立して下さいました。あなたの深い御心に感謝します。しかしこれまでの歩みの中には聖書を読むこと、礼拝を献げることが禁じられた時もあり、また戦時中の静岡大空襲では校舎が全焼するという悲しいこともありました。戦後、再び同窓生はじめ海外の宣教師、信徒の方々の篤い祈りとご支援によって英和女学院は復興しました。そして、今、世界の人たちと共に、わたしたちは新たな困難と向き合っています。どうか日々悲しみに耐え祈る方々と共にひとときでも早く平和な時を迎えることができますように。そして世界の人々と共に喜びと感謝を献げる日を迎えることができますように。この言い尽くせない感謝と願い、尊き主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン